わだつみ像破壊について

『何もしなかった事が
諸君たちの犯した
唯一つの誤ちにならないように……』

社会主義学生同盟
立命支部

今朝のブルジョア商業新聞は一斉につぎの様なみじんもって立命斗争を非難している。いや、「代々木」の分隊乱入に目をつぶり、全共闘斗争を誹謗中傷している！」――しかも、全共闘によって打ち倒されれ「わだつみ像」を中心に論旨が、全共斗、立命斗争の全体が論じられている。

●「何故、倒した不戦の象徴」（朝日）

●「破壊より、まず講義」
新入生は訴える（京都）

●特に梅原猛教授は「全共闘のいい分にもわかる点はあるが、あの像には、ひとつの大学が建て直えた反戦といえる精神の願いがこめられていた。それを破壊する彼等の生き方に、我々戦中世代はもっていはいけない」と話している?!

彼、梅原先生は全共闘のいい分を、何一つわかっていないんだ！学園斗争が安保斗争と結合していることを、よって侵略と抑圧の日本帝国主義の政治に対決していることを！いや彼、梅原先生は「ベトナム反戦斗争をもっとも果敢に推し進めた学友が今、全共斗に結集し、ベトナム反戦と同質の意味で学園斗争を行っている事さえ、御存知ない」

「わだつみ像は、大学問題を戦争反戦ではなく、大学問題と結合した反戦の象徴でなければならない」

●ところで「わだつみ像は、今でも反戦の象徴なのか?!」

「破壊より、まず講義を」と叫ぶ新入生諸君！君たちの学業は戦後、20数年者当にまじめに勉強をしてきた。まじめ過ぎるほどの勉強の中で、机の下で、教室の上で、「後のように暗い反抗」の闇雲がたちこめ、更に、まじめにやっている勉強さえ、無能教授の力ビのはえたノートによってなされ、それ以外にその内容が「歴史の事実を曲げ、戦争へ、更に、ファシズム隷属へと向うためのイデオロギーや、それに従事する労働者を生産するための」にあるのだとしたら、君達はどうするつもり？京都新聞に寄入しての「いにしえ学者一世主のよろん」「君の新入生としての楽しい夢をあるが、君もだまも、そして我々も、未来前線長がこったように、本当に未来の夢があるだろうか？

●ところで「わだつみ像は今でも反戦の象徴なのか？」

立命斗争はよく他の大学の斗争と比較される。それは斗争の中心的スローガンが『立命民主主義体制打倒』であり、最も民主的とされた「立命」での斗いの姿であるから！

我々が一貫として述べてきた様に、「砂上の楼閣」ほどもろいものはない。「民主的言論・国家権力と結合しようとする反理性的な学生支配の思想＝立命民主主義の実体」はいま、広小路の前に、自滅の下にバクロされつつある！

●ところで「わだつみ像」は今でも反戦の象徴なのか？

立命民主主義では、侵略と抑圧の帝国主義の反動の犯は対決できないということである！

わだつみ像は、「反戦と民主主義の象徴ではなく、「何もしなかった事」の「無思想・無抵抗」の免罪符であり、その免罪符の象徴が「木川」と「わだつみ像」の二本の柱であり、「思想をもって抵抗する」全共闘の対決物である！

「方針は『烽火』のとうり」